

## 中国海関公報 1869年—1913年

### Chinese Maritime Customs Service: The Customs' Gazette, 1869-1913

1850年代の中国では太平天国の乱や宗教結社や不法集団の活動により社会が不安定化、貿易の脱税や密輸が横行、清朝による関税徴税業務は破綻を来していました。この状況の中、アヘン戦争後の南京条約以来始められた条約港を通じた貿易活動の停滞を恐れたイギリスは、独自に関税業務を実施することが急務であると考え、清朝の伝統的な徴税機関である海関において清朝官吏に代わり業務を代行、ここに外国人税務司制度が創設されます(1854年)。当初上海に設置された外国人税務司を他の条約港にも設置することが論議される中で、1859年、各条約港の海関を統括し、雇用外国人の人事を司る総税務司が創設され、ホレイショ・レイが就任、外国人税務司制度は廣州、汕頭など他の条約港に拡大します。こうして清朝の伝統的な関税徴収機関である海関は、組織的には中国の行政機関としての体裁を取りつつも、外国人が中心となって運営する機関として生まれ変わりました。就任4年後に解任されたレイの後に総税務司に着任したのがロバート・ハート。卓越した行政能力を備え、人事権の掌握を背景に強大な権限をもち、半世紀近くに亘り海関行政に君臨し、「最も影響力のある外国人」と言われたハートの時代に、海関組織は最盛期を迎えます。当初は上海欽差大臣の下に置かれた総税務司は、ハートの時代に清朝の外交、関税、郵政等を管轄する総理衙門直属のポジションになり、海関本部も上海から北京に移動しました。本部が北京に移動したことにより、総理衙門高官との人脈が深まる中で、ハートや海関幹部は清朝役人の顧問として、様々な助言を行ないました。海関の活動領域も関税管理を超えて、灯台の設置・運営、密輸取締、河川・港湾・鉄道の治安活動、郵便事業の運営から、貿易統計や船舶向け航海案内や気象、公衆衛生に関する報告の刊行、教育機関の運営、さらには中国の外交活動への関与、対外使節団派遣への資金供与、万国博覧会への出展指導まで、近代化を推進する清朝政府の諮問機関として清朝の財政、外交に多大な影響を及ぼしました。

本コレクションは、中国海関総税務司の命令で発行された海関公報を収録します。海関公報は上海の総税務司により発行された季刊貿易統計で、牛莊、天津、芝罘、漢口、鎮江、寧波、福州、廈門、汕頭、淡水、九江、広東など、中国各地の条約港に設置された海関徴税所から提出された報告書を基に作成されました。輸出入、船舶、関税収入等に関する統計と解題を収録するだけでなく、中国各地の社会経済状態、関税や貿易の取締、罰金、密輸品の没収、条約港の状態などに関する情報を提供するものもあります。公報は1869年から1913年まで180号発行されましたが、本コレクションでは150号を収録します。1876年から1877年にかけての第29号から第36号、1880年の第45号と第46号、1881年から1882年の第49号から第56号、1884年の第61号から第64号、1888年から1889年の第77号から第84号は欠号で収録されていません。

収録期間: 1869年-1913年

収録ページ: 36,710 ページ

原資料所蔵機関: Shanghai Library

